

別添 2

目標の達成状況等の評価（環境保全施設整備計画）

都道府県名		山梨県		対象地域名		秩父多摩甲斐国立公園			評価年度		令和 6 年度		
事業実施期間		令和 元 年度～令和 5 年度				事業費		88,432 千円		(うち国費 44,216 千円)			
事業の実施内容		本事業は、秩父多摩甲斐国立公園内の西沢渓谷線道路（歩道）整備事業として、昭和47年に架設された「二俣吊橋」に対する補修工事を実施したものである。当該橋梁については、山間部に位置し、架け替えが必要となった場合、多額の費用と長期間を要することに加え、観光面においても大きな影響が生じることが想定される。そのため、従来の一般管理型（対症療法型）から、長寿命化型管理（予防保全型）への転換を図り、既存橋梁の健全性の低下を防止しつつ、長寿命化を推進することで、安全性の確保と維持管理コストの縮減を目指す必要がある。 このため、平成30年度に「長寿命化計画」を策定し、定期点検の健全度判定結果により、健全度CおよびDと判定された項目について、利用者の安全性を確保することを目的として補修工事を実施した。補修項目は、ケーブル（吊索・耐風支索・防護網）の取替え、塗装の塗り替え、ボルト・ロックナットの取替え、床版の取替え、防護柵結束バンドの取替え、滑り止め塗装の塗り替えを実施した。 これらの補修工事は、令和元年度に設計を実施し、令和3年度から令和5年度にかけて、3工区に分けて段階的に施工した。											
長寿命化計画 適否		名 称		橋梁長寿命化計画		策定年度		平成30年度		適否		適合	
		名 称				策定年度				適否			
		名 称				策定年度				適否			
目標の 達成 状況	整備計画策定時に設定した目標に対する事業の効果の発現状況		本事業により、西沢渓谷線道路における「二俣吊橋」の補修工事を実施した結果、利用者数については、令和元年度に70,001人であったが、完成翌年度にあたる令和6年度には、目標値として設定していた75,000人を大きく上回る88,140人を記録した。 この利用者数の増加は、以下の要因によるものと考えられる。 ・補修工事により、橋梁の安全性が向上するとともに、周囲の自然景観との調和が図られ、景観を楽しみながら安心して散策できる環境が整備されたこと。 ・災害復旧事業として並行して整備が進められていた「滝見橋」が令和6年4月に完成したことにより、令和2年度から令和5年度まで迂回を余儀なくされていた区間が解消され、令和6年度からは周遊コース全線の通行が可能となったこと。 ・広報活動やテレビ番組等の紹介により、地域の魅力が広く発信され、認知度が向上したこと。 また、施設補修箇所については、定期点検における健全度判定でCおよびDと判定された項目はすべて解消され、橋梁の安全性と信頼性が確保された。										
	目標を定量化する 指標の達成状況	当初の 指標	指 標	単位	定 義	従前値	目標値	達成値	達成値の評価				
						基準年度	目標年度	達成年度					
			二俣吊橋の利用者数	人	二俣吊橋を整備することにより、利用者が増加する。	70,001 令和元年度	75,000 令和6年度	88,140 令和6年度		目標値を達成できた。			
			施設補修箇所	橋	健全度判定においてC、Dをなくす。	1橋 令和元年度	0橋 令和6年度	0橋 令和6年度		目標値を達成できた。			
		その他の 指標											
	整備に伴う取り組みの実施状況		本事業の実施にあたり、整備と併せて来訪者の利便性および満足度の向上を図るため、以下の取り組みを推進した。 当該歩道は、往路となる渓谷沿いの区間を山梨県が、復路となる旧軌道（トロッキ道）の区間を山梨市がそれぞれ管理しており、県の別事業において実施された「滝見橋」の災害復旧工事については、本事業の完成に合わせて復旧を進めたことで、令和6年度より全線の通行が可能となったほか、眺望スポットの景観伐採を行い、自然を楽しめる環境を整備した。 また、市の事業としては、県の補助金を活用し、市管理区間における橋梁の再整備を実施し、利用者の快適性向上を図った。 これらの取り組みにより、来訪者満足度の向上、観光資源の価値向上、来訪者数の増加に貢献した。										
	今後の取り組み		本事業により得られた成果を踏まえ、地域の関係機関と連携しながら、継続的な整備・管理を進める。今後は長寿命化計画に基づき、5年ごとの健全度判定を実施し、必要に応じて補修を行うことで、安全性の確保と来訪者満足度、観光資源の価値向上に努めていく。										